

県内経済動向調査結果(平成21年11月分)

平成22年1月18日

産業経済政策課

概 況

県内経済は、製造業で持ち直しの動きが見られるものの、総じて厳しい状況が続き、先行きの不透明感が広がっている。

主な業種	状 況
製 造 業	減産となっているが、引き続き持ち直しの動きが見られる 生産額、受注額はそれぞれ前年同月比1.7%減、同1.9%増となった。 3か月先の業況見通しDIは▲31.7から▲36.1となった。
建 設 業	公共工事の減少などから先行き見通しが悪化 受注額、完工高はそれぞれ前年同月比4.7%増、同29.3%減となった。 3か月先の業況見通しDIは▲66.7から▲75.0となった。
小 売 業	引き続き弱い動きとなっている 売上高は前年同月比6.2%減、3か月先の業況見通しDIは▲57.1から▲50.0となった。
サービス業	弱めの動きとなっている 売上高は前年同月比3.4%減、3か月先の業況見通しDIは▲37.0から▲48.1となった。

製造業の動向

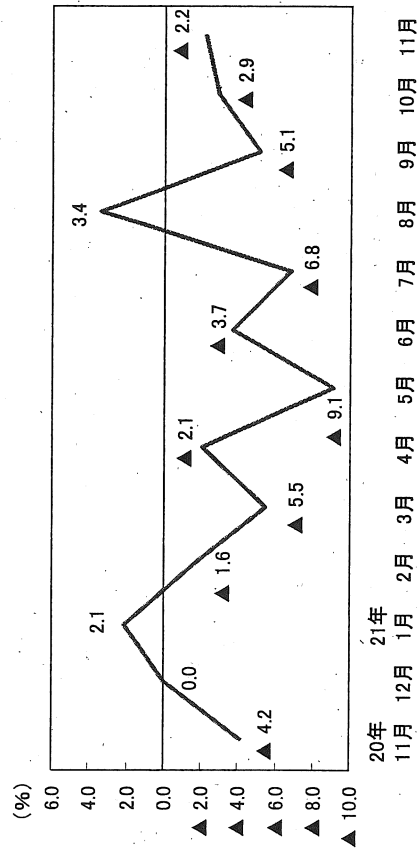
1 食料品

弱含みとなっている

生産額は前年同月比2.2%減。3か月先の業況見通しDIは▲35.7と変わらな
い。

酒類では、若干マイナスではあるものの、前年同月比並みを確保した。総
菜類では、売上は増加したものの、低価格競争により利益が減少し、菓子
類では、贈答用が落ち込むなど、総じて弱含みとなっている。

食料品生産額前年同月比



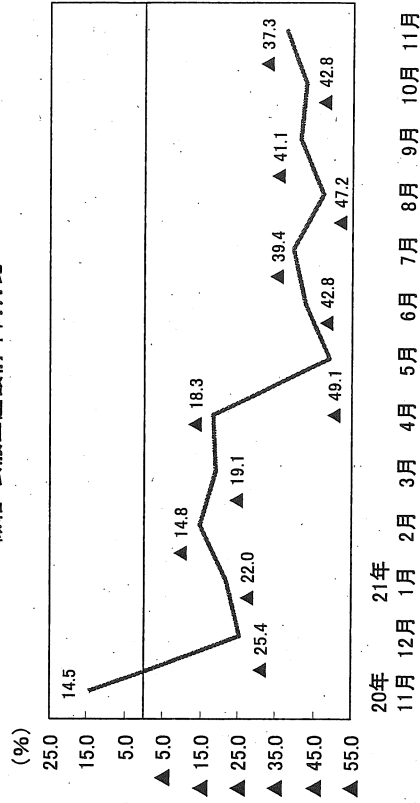
2 繊維・衣服

低調な生産活動が続く

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比37.3%減、同19.9%減。3か月先の業
況見通しDIは▲16.7から0.0となった。

調査対象となっているほとんどの企業で、前年同月比がマイナスとなっ
ているほか、休業日を設けている企業もあり、上向く兆しが見られない状況と
なっている。一部前年同月比増の企業においても、小ロット・多品種の受注
が大部分を占め、利益の確保に苦慮している。

繊維・衣服生産額前年同月比



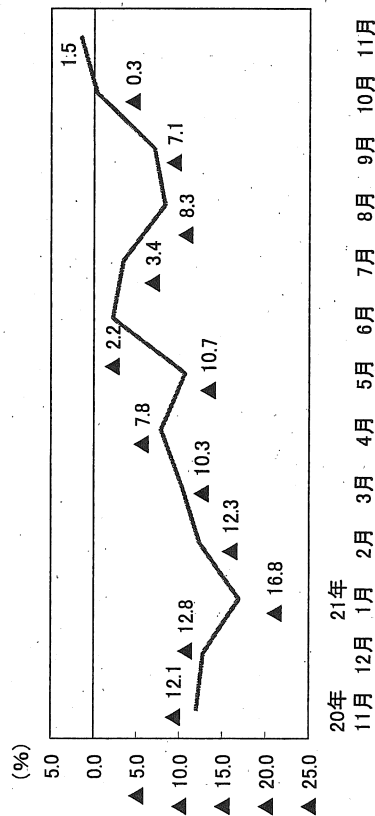
3 木材・木製品

27カ月ぶりにプラス

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比1.5%増、同2.4%増。3か月先の業況見通しDIは▲41.7から▲50.0となった。

合板では、公共物件の前倒し発注の影響等によりプラスとなり、全体を引き上げる要因となったものの、販売単価の低下傾向が見受けられる。一般製材では、前年同月並み、集材材では、前年同月比マイナスとなっている。

木材・木製品生産額前年同月比



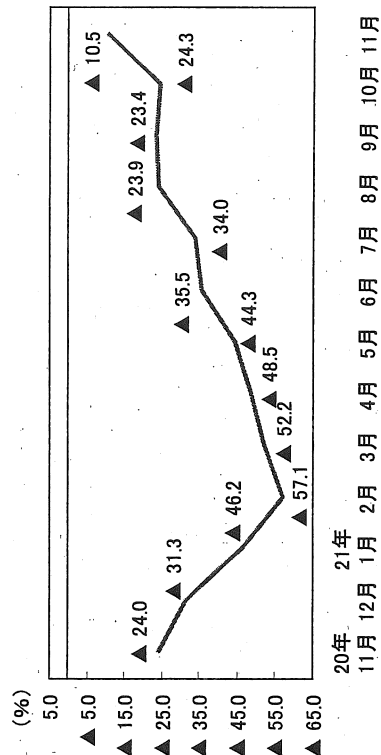
4 鉄鋼・金属製品

減産が続く

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比10.5%減、同7.3%増。3か月先の業況見通しDIは▲27.3から▲36.4となった。

鉄鋼において、残業、休日勤務を行うなどにより増産に対応している企業も一部見受けられるものの、電気機械関係金属では、勤務日における時短休業や休業日を設けている企業もあり、総じて見れば減産が続いている。

鉄鋼・金属生産額前年同月比



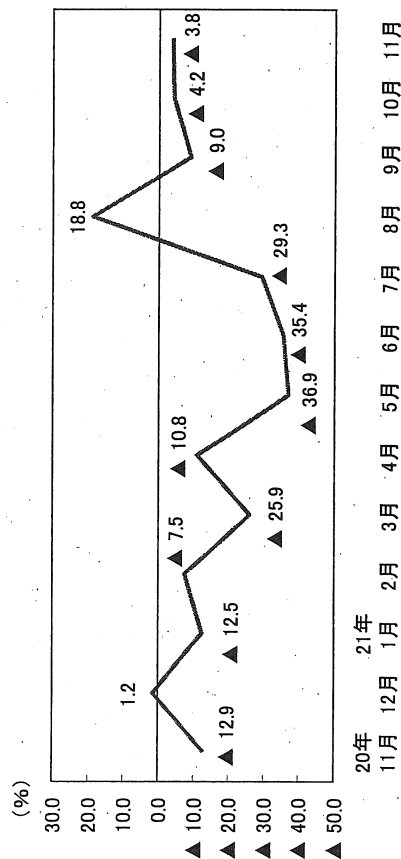
5 一般機械

弱めの動き

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比3.8%減、同19.9%減。3か月先の業況見通しDIは▲83.3から▲42.9となった。

公共工事関連、プラント関連では、引き続き堅調な動きとなっているものの、既受注分以降の新規受注の無い企業もあり、先行き見通しが不透明な状況も見受けられる。産業機械関連では、依然低調であるが、一部に回復の兆しも見られる。

一般機械生産額前年同月比



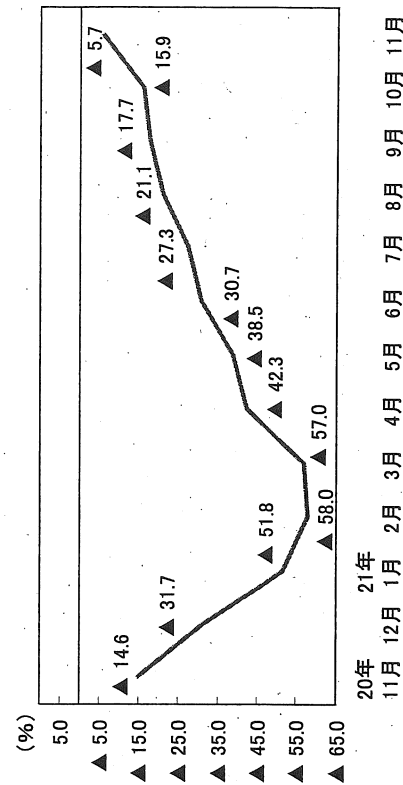
6 電気機械

持ち直しの動きが続く

生産額、受注額は、それぞれ前年同月比5.7%減、同5.2%減。3か月先の業況見通しDIは▲31.6から▲42.1となった。

コンデンサーでは、前年同月比のマイナス幅が縮小し、生産額が上向いてきているものの、プラスに転じるまでには至っておらず、回復が足踏み状況となっている企業も見受けられる。半導体関連では、中国向けの伸びなどもあり、好調な動きとなっている。

電気機械生産額前年同月比



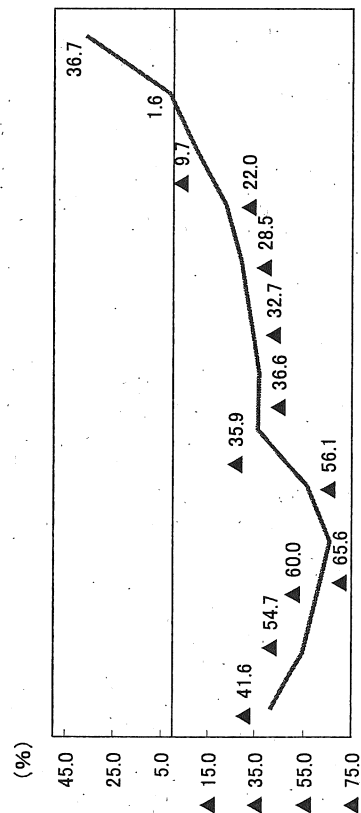
7 輸送機械

回復基調が続く

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比36.7%増、同46.4%増。3か月先の業況見通しDIは▲16.7から▲33.3となった。

引き続き、休業日等を設け生産調整を行っている企業もあるものの、工場をフル稼働し、土曜日、日曜日も生産を行っている企業も見受けられ、総じて見れば、生産・受注は増加傾向にあり、回復基調が続いている。

輸送機械生産額前年同月比



20年 21年
11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月

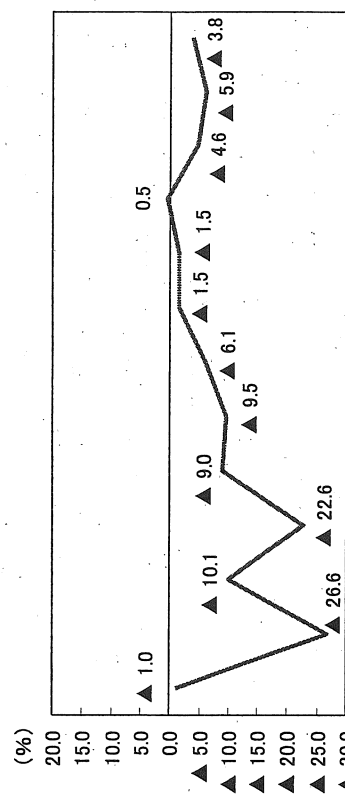
8 精密機械

弱含みとなっている

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比3.8%減、同7.0%増。3か月先の業況見通しDIは0.0から▲25.0となった。

光ファイバー関連では、北米向けはやや弱含みとなっているものの、中国向けが堅調であり、前年同月比はプラスとなっている。医療機器関連では、円高の影響もあり、一服状態となっている。計量関連では、低調な動きが続いており、休業日を設け生産調整を行っている企業が見受けられる。

精密機械生産額前年同月比



20年 21年
11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月

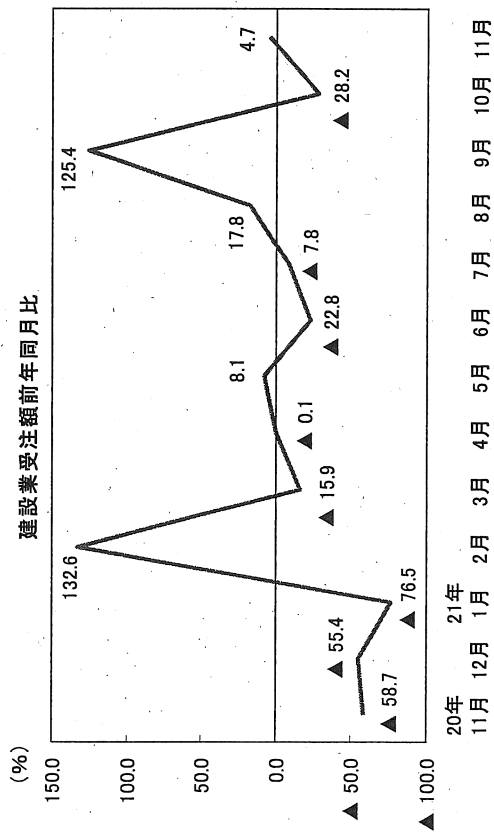
建設業の動向

建設業

公共工事の減少などから先行き見通しが悪化

受注額、完工高はそれぞれ前年同月比4.7%増、同29.3%減。3か月先の業況見通しDIは▲66.7から▲75.0となった。

民間の大口受注により前年同月比でプラスになっているものの、公共工事が減少しており、3か月先のDI値が▲75と今後の先行き見通しが悪化している。



小売業の動向

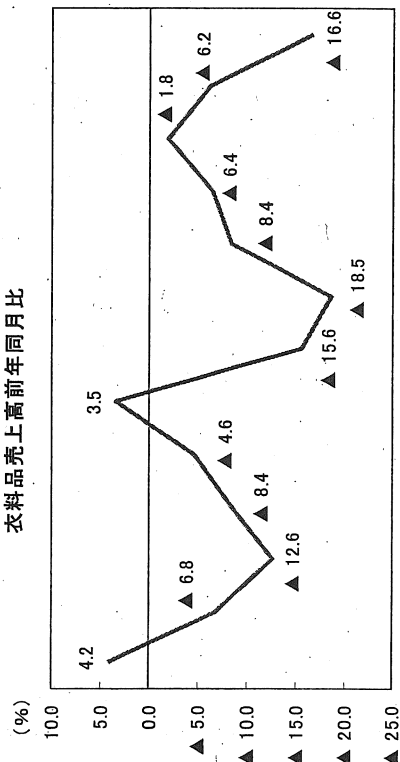
1 衣料品

低調な売上となっている

売上高は前年同月比16.6%減。3か月先の業況見通しDIIは▲60.0から▲40.0となった。

消費マインドの低い傾向が続き、呉服や高額商品の売上は特に落ち込んでいる。また、法人からの制服等の受注も減少しており、低調な売上となっており、調査対象となっているほとんどの企業で前年同月比マイナスとなっている。

衣料品売上高前年同月比



20年 21年
11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月

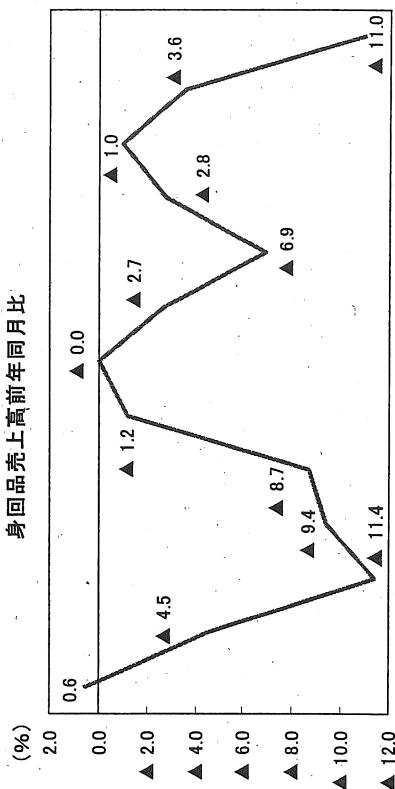
2 身回品

売上の落ち込みが続く

売上高は前年同月比11.0%減。3か月先の業況見通しDIIは▲50.0から▲83.3となった。

ホームセンターでは、除雪、暖房関係商品の売上が低調であったほか、全体的に原価が下がらない中で、消費者の購買意欲の低下や低価格志向から売上高も伸び悩み、利益の確保に苦慮している状況となっている。手芸用品では、前年並みの売上となったものの、化粧品、婦人小物では、減少し、総じて見れば売上の落ち込みが続いている。

身回品売上高前年同月比



20年 21年
11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月

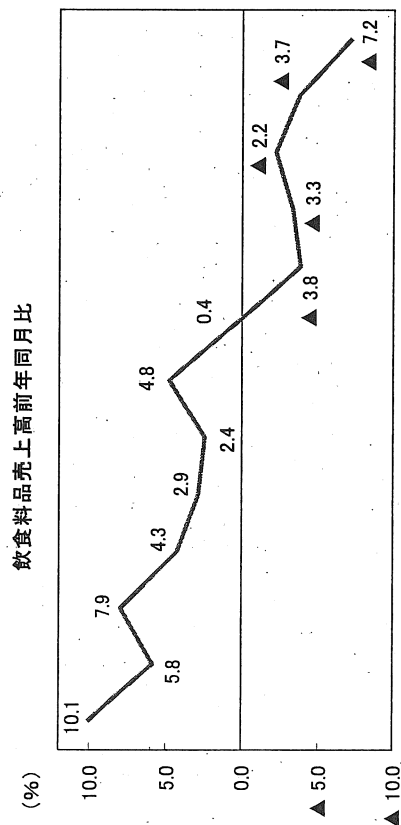
3 飲食料品

弱めの動きとなっている

売上高は前年同月比7.2%減。3か月先の業況見通しDIは▲58.3から▲50.0となった。

スーパーでは、低価格商品を求める消費者の傾向もあり、売上高は伸び悩んでいる。コンビニでは、客数、客単価が前年同月比割れとなっており、弁当等の米飯類の売上が落ち込んでいる。

飲食料品売上高前年同月比



20年 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月
21年

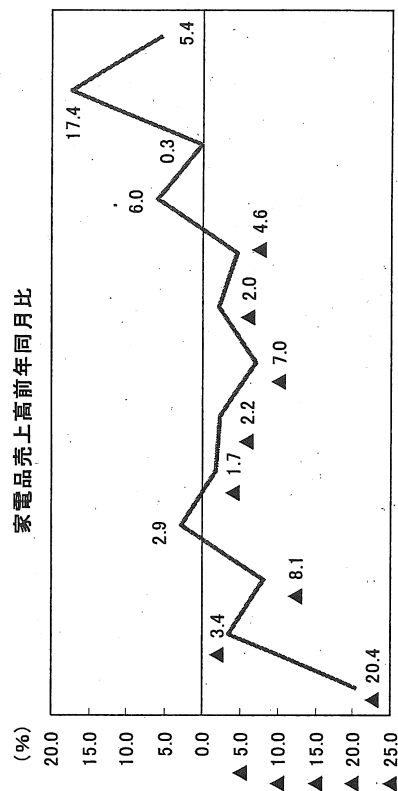
4 家電品

薄型テレビ等のエコポイント対象商品が引き続き堅調

売上高は前年同月比5.4%増。3か月先の業況見通しDIは▲60.0から▲20.0となった。

薄型テレビ等のエコポイント対象商品が引き続き堅調に推移しており、調査対象企業の全てにおいて前年同月比プラスとなっている。

家電品売上高前年同月比



20年 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月
21年

サービス業の動向

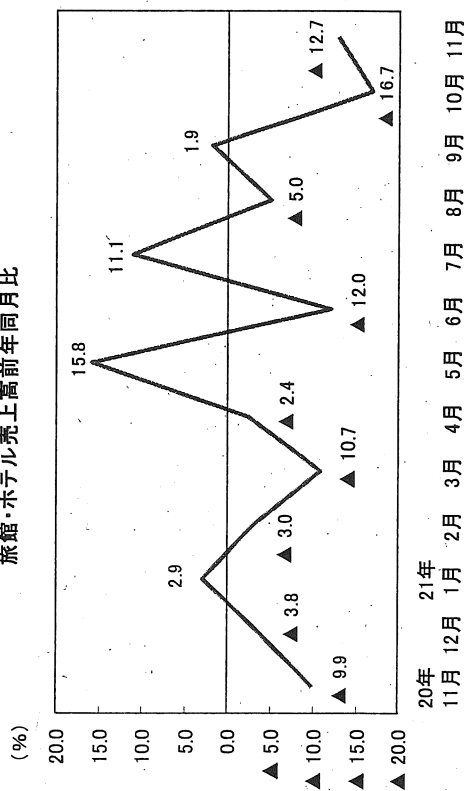
1 旅館・ホテル

弱めの動きとなっている

売上高は前年同月比12.7%減。3か月先の業況見通しDIは▲53.3から▲60.0となった。

宿泊部門で、インターネットで安価プランを予約する宿泊者の増加により客単価が下がる傾向にあるほか、ビジネス客が減少していることなどにより売上が伸び悩んでいる企業が見受けられ、弱めの動きとなっている。

旅館・ホテル売上高前年同月比



2 その他サービス

弱含みとなっている

売上高は前年同月比3.4%増。3か月先の業況見通しDIは▲16.7から▲33.3となった。

運輸業では、自動車関連部品や果物などの輸送が好調であった。保険業では、個人向け生命保険において、契約見直しによる契約件数が増加傾向にあるものの、契約単価が低く、売上が伸び悩んだ企業が見受けられた。道の駅では、団体客の集客等により前年同月比プラスとなった企業がある一方で、マイナスの企業もあり、業況が分かれるものとなった。

その他サービス売上高前年同月比

